部　会　報　告

ISO/TC 127/SC 2/WG 22（ISO 17757 土工機械及び鉱山―自律式機械・鉱山システム安全）2018 年 1 月 東京国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家（Expert）　西嶋　章治（コマツ）

国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127（土工機械）傘下の国際作業グループ ISO/TC 127/SC 2/WG 22（ISO 17757 土工機械及び鉱山―自律式・半自律式機械及び鉱山システム安全）作業グループ会議が 2018 年 1 月に東京で開催され，協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家（Expert）として出席した西嶋章治氏の報告を紹介する。

1　**開催日**：2018 年 1 月 25, 26 日

2　**開催地**：機械振興会館

3　**出席者**：17 名

米国 5 名，カナダ 2 名，ドイツ 2 名，イギリス 1 名，オーストラリア 1 名，日本 6 名

4　**会議概要**：

ISO 17757 は昨年発行され，今回，そのフィードバックとして得た新たなコメントの検討，および追加項目（Part 2）の検討をするために WG 会合が開催された。

会議は，イントロダクションとして Part 2 に向けた WG 会合を開始する旨を紹介したのち，事前に準備されていた議事内容を順次議論する形で進められた。

5　**議事**：

・ASAM の EMC 規格（ISO 13766）への遵守

EMC の要求は，国や地域によって差がある。そのため一律で遵守することを規格に入れるのは困難かもしれないという議論がなされた。最終的には，最初のステップとして ISO 13766 をレビューして，ASAM に対して適用できるかを確認することとなった。

・Brake & Steering System の修正案

テスト条件によっては，ASAM では指定速度まで出さないなどの Limitation があることがあり，確認テストが出来ない場合が出てくる。そのような場合のために，柔軟性を持たせる文言を入れることが提案された。内容検討の上，提案の文言を入れる方向で進める。

・Cyber Security

Cyber Security という文言は相応しくないという議論から始まった。Communication Security という案もあったが，もう少し狭義の意味を持つ Information Security と改めることとなった。また，参照例として記載する ISO 27001, ISO 27002 については，Note の中の一例として示すこととした。

Information Security におけるリスクについては専門的な知識も必要という議論がされた。本件は次回の WG においても引き続き議論する。

・Autonomous Responsibility

ISO 17757 の適合に関して，各項目の Responsibility を明確にしてはどうかという議論が行われた。各項目に対して Manufacture/Integrator/Site Operator のいずれか（または複数）が Responsibility を持つという表を例として出すことを検討したが，例として出すことで固定概念が出来上がり柔軟性を欠くことになりかねないため，Responsibility に例を入れることは避けることとなった。

ISO 17757 の適合を明示するチェック表は添付し，責任業者がサインする形式とする方向で検討することとなった。

6　**今後の予定**：

今回議論した内容の詳細検討および追加項目検討を行う。

2018 年 4 月　Joint Working Group（Berlin）

2018 年 7 月　Joint Working Group（Canada）

以上

写真―1　ISO/TC 127/SC 2/WG 22 会議風景